

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ジャスモート®液剤
供給者の会社名称、住所及び電話番号	
会社名称	三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社
住所	東京都中央区日本橋一丁目 19 番 1 号
担当部門	国内マーケティング部
電話番号	03-5290-2740
FAX 番号	03-3231-1176
整理番号	BGA50051Ja_01
推奨用途及び使用上の制限	農薬(植物成長調整剤)

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

【物理化学的危険性】

引火性液体 区分 3

【健康に対する有害性】

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2B

生殖毒性 区分 2

特定標的臓器毒性
(単回ばく露) 区分 3 (気道刺激性、麻酔作用)

【環境に対する有害性】

水生環境有害性
短期(急性) 区分 3

GHS 分類で区分の記載がない物理化学的危険性については「自己発熱性化学品」と「金属腐食性化学品」の項がデータが無く「分類できない」である以外は全て「区分に該当しない」である。

健康有害性については後述の 11 項に、環境有害性については 12 項に、分類についての記述がある。

GHS ラベル要素

【絵表示】



【注意喚起語】

警告

【危険有害性情報】

- 引火性液体及び蒸気(H226)
- 眼刺激(H320)
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い(H361)
- 呼吸器への刺激のおそれ(H335)
- 眠気又はめまいのおそれ(H336)
- 水生生物に有害(H402)

【注意書き】

[安全対策]

- 使用前に取扱説明書入手すること。(P201)
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
- 容器を密閉しておくこと。(P233)
- 容器を接地しアースをとること。(P240)
- 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。(P241)
- 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
- 静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
- ミストおよび蒸気の吸入を避けること。(P261)
- 取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
- 環境への放出を避けること。(P273)
- 保護手袋、保護眼鏡または保護面を着用すること。(P280)

[応急措置]

- 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚(又は髪)を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
- 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
- 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
- ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること。(P308+P313)
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
- 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313)

火災の場合：消火するために粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、霧状水などを使用すること。(P370+P378)

[保管]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)

施錠して保管すること。(P405)

[廃棄]

内容物、容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	： 混合物			
化学名又は一般名	： プロピロキシモン液剤			
慣用名または別名	： ジャスモート液剤			
混合物の組成	プロピロキシモン	1-プロパノール	界面活性剤	水
濃度又は濃度範囲	5%	33%	30%	32%
CAS 番号	158474-72-7	71-23-8	63089-86-1	
官報公示整理番号(化審法)	— (農薬)	2-207	7-110	
官報公示整理番号(安衛法)	3-(3)-129	— (既存)	— (既存)	

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医療処置を受けること。

皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合：医療処置を受けること。
気分が悪い時は、医療処置を受けること。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合、医療処置を受けること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医療処置を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

: データなし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

: データなし

医師に対する特別な注意事項

: データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素などによる窒息消火など

使ってはならない消火剤 : 棒状水

特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
火災による加熱で、容器が破損し、内容物に引火爆発する恐れがある。

特有の消火方法 : 消火作業は、風上から行う。
周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
可能であれば格納容器は水噴霧により低温に保つ。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火に粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素等を使用すること。液溜りや容器内で燃えている場合に棒状注水しない。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

: 消火作業の際は、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク、空気呼吸器、保護衣等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。
多量の場合、人を安全な場所に退避させる。
必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
漏出物を河川や下水に直接流さない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

: 少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。
多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。
危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
作業には火花を発生しない安全な用具、機器を使用する。
床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因とな

るため注意する。
漏出物の上をむやみに歩かない。
ガスが拡散するまでその場所を隔離する。
回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封しておく。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置すること。容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。

安全取扱注意事項 : ミストや蒸気の吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
火気厳禁
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしないこと。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

接触回避 : 酸化性固体、酸化性液体との接触をさける

衛生対策 : 取扱い後は手などをよく洗うこと。

保管

安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること
火気厳禁
地震等により、容易に容器が転落し、若しくは転倒し、又は他の落下物により損傷を受けないよう必要な措置を講ずること

安全な容器包装材料 : 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 未設定

許容濃度

日本産衛学会(2021年度版)

: 未設定

ACGIH(2021年版)

: TWA 100ppm(1-プロパノール)

設備対策

: 防爆型の適切な換気装置を使用すること。

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

- 呼吸用保護具 : 必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。
- 手の保護具 : 保護手袋を着用すること。
- 眼、顔面の保護具 : 保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用する他、必要に応じて皮膚および身体を覆う保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体 (20°C)
- 色 : 無色透明
- 臭い : 特異臭
- 融点/凝固点 : データなし
- 沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : データなし
- 引火点 : 33.0 °C (タグ密閉式): GHS 分類 引火性液体 区分 3 該当
- 自然発火点 : データなし
- 分解温度 : データなし
- pH : データなし
- 動粘性率 : 動粘度 17.8 cSt (33°C/B 型回転粘度計)
- 溶解度 : 水への溶解度: 水溶性 (300 倍程度希釈では白濁)
アセトン、ジメチルスルホキシド: 混和する
- n-オクタノール/水分配係数(log 値) : logPow = データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 密度及び/又は相対密度 : 0.955 (20°C)
- 相対ガス密度 : データなし (20°C空気基準(分子量 29)相対蒸気密度)
- 粒子特性 : 液体につき対象外

10. 安定性及び反応性

- 反応性 : 自然発火性は無い。
自己発熱性についてデータが無く GHS 分類できないが通常
の取り扱いで発熱などの情報や経験は無い。
金属腐食性についてはデータが無く GHS 分類できないが、酸性
基を持たない有機化合物の水溶液であり腐食性は低いと考え

	られる。
化学的安定性	: 分子内に自己反応性に関連する原子団を含まず、通常の保管条件や使用条件では安定である。
危険有害反応可能性	: 分子内に爆発性に関連する原子団を含まず通常の保管や使用条件下では安定である。
避けるべき条件	: 引火性を持つので熱源への接触、火気、火花、静電気放電などを避けること。
混触危険物質	: 消防法第四類の危険物であり酸化性固体(第一類)および酸化性液体(第六類)との接触は避ける(指定数量以上の輸送において混載禁止となっている)。
危険有害な分解生成物	: 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	GHS 分類: 区分に該当しない 経口、経皮およびミスト吸入のデータがいずれも区分に該当しないことから、急性毒性項目としては「区分に該当しない」とした。
経口	: GHS 分類: 区分に該当しない 下記データより「区分に該当しない」と分類した。 (1) ラット 雌雄 5 匹ずつの群に、投与量 5,000mg/kg で毒性試験を実施。死亡例なし。LD50 > 5,000mg/kg。 一般状態、体重増加挙動および剖検所見に被験物質投与による異常は認められなかった。
経皮	: GHS 分類: 区分に該当しない 下記データより「区分に該当しない」と分類した。 (1) ラット 雌雄 5 匹ずつの群に、投与量 2,000mg/kg で毒性試験を実施。死亡例は無く、一般状態、体重増加挙動および剖検所見に被験物質投与による異常は認められなかった。 LD50 > 2,000mg/kg。
吸入: ガス	: GHS 分類: 区分に該当しない 本品は GHS の定義で液体であり「分類対象外」である。
吸入: 蒸気	: GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
吸入: 粉塵、ミスト	: GHS 分類: 区分に該当しない 下記データから区分に該当しないと分類した。 (1) Sprague-Dauley 系ラットの雌雄各 5 匹の群を 5.0mg/L(粒子径 1.96 ± 1.83 μm。ラットが呼吸可能な 4 μm 以下の粒子割合 88.1%)の濃度で 4 時間暴露し、暴露後 14 日間観察を実施したが、雌雄ともに死亡例は無く、LC50(4 時間) > 5.0mg/L であった。

暴露直後に流涎、鼻汁および自発運動の低下が認められたが、いずれもばく露終了後2時間には消失した。体重は観察期間を通して順調に増加し、剖検でも被験物質投与による異常所見は認められなかった。

皮膚腐食性/刺激性

: GHS 分類: 区分に該当しない

下記データより皮膚刺激性は無く、区分に該当しないと分類した。

(1) 日本白色種の雌性ウサギ 6 匹に対して被験物質 0.5ml を半閉塞貼付 4 時間暴露後パッチを除去し、1、24、48、72 時間後の紅斑、浮腫を観察した。1 時間後に評価点 1(最高点は 4)の紅斑が 3 例に認められたが、24 時間後に 2 例は消失し、残り 1 例も 48 時間には消失した。浮腫は認められなかった。AFNOR の方法による Primary Cutaneous Irritation Index(P.C.I)は 0.2 で、“NON IRRITANT(刺激性なし)”であった。以上から被験物質はウサギの皮膚に対して刺激性を示さないと結論した。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: GHS 分類: 区分 2B

下記非洗眼群の 24、48、72 時間後の角膜混濁の評価スコア平均が 1.7 で、すべての症状が 7 日間で消失し、可逆的であるので区分 2B と分類した。

(1) 日本白色種の雌性ウサギ 9 匹(非洗眼群 6 匹、洗眼群 3 匹)を用いて眼刺激性を評価した。Draize 法による非洗眼群の評価点の最大値は 52 点であり、この値から Kay および Calandra の方法に従い刺激性の程度を分類すると“Severely irritating”(強い刺激性)であった。

(非洗眼群 6 匹)

投与後 1 時間に評価点 2 の角膜の混濁(範囲は 4)、評価点 1 の結膜の赤化、評価点 2 または 3 の結膜の浮腫および分泌物が全例にみられた。これらの症状は漸次軽減し、7 日後には消失した。24、48、72 時間後の角膜混濁、虹彩異常、結膜の赤化および浮腫の平均スコアは各々、1.7、0、1、1 であった。

(洗眼群 3 匹)

非洗眼群と同様の症状が認められたが、7 日間後には消失した。なお、一部の症状で非洗眼群と比べて消失時期が早く、洗眼の効果認められた。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

: GHS 分類: 分類できない

呼吸器感作性データ不足のため、全体では「分類できない」とした

呼吸器感作性

: GHS 分類: 分類できない

- データ不足のため分類できない。
- 皮膚感作性 : GHS 分類: 区分に該当しない
 下記データより区分に該当しないと分類した。
 (1) Hartley 系モルモットの雌 30 匹を用いて被験物質の皮膚感作性試験を Buehler Test に準拠して行った。被験物質は感作時および惹起時に注射用水で 10vol%に希釈して使用し、陽性対象物質には 2,4-dinitrochlorobenzene(DNCB)を用いた。
 惹起の結果、被験物質投与群では皮膚反応は認められなかったが、DNCB 投与群では全例で陽性の皮膚反応が認められた。
 以上の結果より、被験物質はモルモットに対して皮膚感作性を示さないものと結論した。
- 生殖細胞変異原性 : GHS 分類: 分類できない
 被験物質としてのデータが無く、分類できない。
 成分のフロヒドロジャスモン単体は「区分に該当しない」のデータはあるが、1-フロパノールおよび界面活性剤単体のデータなし。
- 発がん性 : GHS 分類: 分類できない
 被験物質としてのデータが無く、分類できない。
 成分のフロヒドロジャスモン単体および 1-フロパノール(政府による GHS 分類(2009 年度))は「区分に該当しない」であるが、界面活性剤のデータが無く全体としては「分類できない」とした。
- 生殖毒性 : GHS 分類: 区分 2
 被験物質としてのデータがなく分類できない。
 一方、個々の成分については、フロヒドロジャスモンは「区分に該当しない」の分類、1-フロパノールについては、下記(1)の政府による GHS 分類(2009 年度)で区分 2 の分類があり、界面活性剤についてはデータがない。
 被験物質は、区分 2 の 1-フロパノールを 3%以上含有することから「区分 2」に分類した。
 (1)ラットを用い、雄は 6 週間吸入ばく露後に非ばく露の雌と交配、雌は妊娠 1 日目～9 日目に吸入ばく露を行った試験において、母動物の体重増加抑制や摂餌量の減少など一般毒性の発現用量で、雄の生殖能低下 (ACGIH(2007))、吸収胚の顕著な増加(環境省リスク評価(第 6 巻、2008)、PATTY(5th, 2001))が報告されていることから区分 2 とした。
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: GHS 分類: 区分 3(麻酔作用)

区分 3(気道刺激性)

被験物質としてのデータが無く分類できない。

また、成分のプロトドロジャスモンは、経口、経皮について「区分に該当しない」の分類が、1-フロパノールについては、下記(1)の政府による GHS 分類(2009 年度)があるが、界面活性剤についての情報は無い。

1-フロパノールには、「区分 3」の麻酔作用と気道刺激性があり、且つ、含有量が 20%以上であるので、被験物質を「区分 3」(麻酔作用)、「区分 3」(気道刺激性)と分類した。

(1) マウスで吸入ばく露により深い麻酔を起こしたとの報告 (EHC102(1990)、PATY(5th, 2001))があり、ウサギで経口投与による麻酔作用の ED50 値は 1440 mg/kg との記載 (EHC102(1990))もあり、区分 3(麻酔作用)とした。また、ヒトにおける刺激性(目および鼻)を示す閾値は 4000~16000ppm とされていることから区分 3(気道刺激性)とした。なお、単回ばく露後の主要な毒性影響は中枢神経系の抑制である (EHC102(1990))と記述され、また、唯一ヒトの中毒事例として、化粧品調製剤に溶剤として含まれる本物質約半リットルを摂取後、意識消失を起こし 4~5 時間後に死亡したとの報告 (EHC102(1990))があるのみで、その他には有害影響の報告はない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: GHS 分類:分類できない

被験物質としてのデータが無く分類できない。

成分のプロトドロジャスモンは、経口経路では「区分に該当しない」の分類がある。また、1-フロパノールについては、下記の情報(政府による GHS 分類結果(2009 年度))があるが、界面活性剤については情報がない。

以上から、全体としてはデータ不足で「分類できない」とした。

(1) ラットに 13 週間あるいは 1 年半に及ぶ経口ばく露により、肝臓で脂肪変性、壊死、線維化など、骨髄の造血実質過形成などが報告されている(環境省リスク評価(第 6 巻, 2008)、EHC102(1990)、BUA Report No.190(1998))が、いずれもガイド値範囲を超える用量での所見のため分類できない。

誤えん有害性

: GHS 分類:分類できない

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

短期(急性)

: GHS 分類:区分 3

下記データより、区分3と分類した。

(1) 魚類(コイ) 96時間 LC50 = 77mg/L(95%信頼区間: 60mg/L ~ 90mg/L) → 区分3に該当

(2) 甲殻類(オオシジコ) 48時間 EC50 = 60.2mg/L(95%信頼限界 51.5 ~ 70.3mg/L) → 区分3に該当

(3) 藻類成長阻害試験 72時間 ErC50 = 250mg/L、NOECr = 35.0mg/L → 区分に該当しない

長期(慢性) : GHS分類: 区分に該当しない
藻類成長阻害試験の72時間 NOECr = 35.0mg/Lであり、成分のプロピトロジャスモン、1-プロパノールが急速分解性があることから「区分に該当しない」と分類した。

残留性・分解性 : 圃場試験において速やかな分解が確認されており、土壌残留性の懸念はないと思われる。

生態蓄積性 : プロピトロジャスモンの log Pow は 4.1 であるが易分解性であり、また、1-プロパノールの log Pow は 0.2 で良分解性である。生体蓄積性には懸念は無いと思われる。

土壤中の移動性 : 水溶性であり初期移動性は高いと思われる。

オゾン層への有害性 : GHS分類: 分類できない
組成成分がモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物 : 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 : 海上輸送はIMOの規則に、航空輸送はICAO/IATAの規則に従う。

国連番号 : 1993

品名(国連輸送名) : その他の引火性液体(他の危険性を有さないもの)

国連分類(輸送における危険有害性クラス)

16. その他の情報

ジヤスモートは日本ゼオン株式会社の登録商標です。

引用文献

- ・ 日本ゼオン株式会社 安全データシート
ゼオンジヤスモート液剤（2022年11月21日発行）

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しております。記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意して下さい。

又、含有量、物理的及び化学的性質、危険・有害性等の記載内容は情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

なお、注意事項等については通常の実用性を対象にしたものですので、特別な取扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。